

# 地域における医療介護職協働 在宅看取りケア研修事業 報告

今年度実施地域：京田辺市、右京区、上京区、中京区、宇治市、西京区



宇治市の開催目的は、多職種が協働してひとつとなり、看取りが自然な状況で、住み慣れた所で過ごせるように出来ることを話し合う事でした。

▶ 受講者 77人 (単位：人)

職種	人数	職種	人数
訪問看護師	23	相談員	2
ケアマネ	18	社会福祉士	3
介護福祉士	8	栄養士	2
ヘルパー	2	保健師	1
看護職	10	宇治市職員	3
理学療法士	2	その他	3

まず、宇治明星園特別養護老人ホーム副園長で相談員の野村宏之氏に施設看取りを始めたきっかけ、その経緯についてお話しいただきました。それは、ある救急病院の医師に施設での看取りについて言われ、どのように進めていき、いかに自然にしていくことが出来たのかを話して頂きました。

また、話題提供として、訪問看護師、ケアマネージャー、相談員の立場から多職種連携の事例が上がりました。なんとか入院せずに在宅で生活したいご本人・ご家族の気持ちを在宅チームの訪問看護師が中心となり、在宅でショートステイ利用に繋げることが出来たのは、「そんな仕事が出来た」と難しいケアプランに取り組んだケアマネージャーや、その難題を受け入れ実行したショートの相談員でした。その時の想いを、それぞれがみなさんに伝えていきました。



グループワークでは、「その人の人生を考え支え合うためのそれぞれの役割について共に考える」という多職種協働をテーマに、13のグループに分かれて話し合いました。各グループでは、熱のこもった意見が取り交わされ、時間いっぱい(少し足りないようでしたが)にディスカッションすることができました。多職種協働の第一歩を踏み出せたと思います。

最後に京都地域包括ケア推進機構発行「考えてみましよう『人生の終い支度』と医療」を参考にACPIについての理解を深め、ご利用者様への啓発・普及促進に向けた取り組みをしていく事の重要性を共有する機会となりました。

**第1回 「自宅で最期まで生きるための多職種研修会～宇治市編～」**

主催：一般社団法人 京都府訪問看護ステーション協議会  
令和元年度京都地域包括ケア推進団体交付金事業

高齢者が住み慣れた家で最期まで生き残るためには、在宅ケア・ピースの利用は欠かせないものです。最期まで本人・家族の思いや希望に寄り添い、多職種が知恵を出し合い、その方の人生を考え、支え合うためのそれぞれの役割について共に考えてみませんか？

参加費無料

日時：令和元年10月5日(土)  
13時30分～16時30分(受付13:15～)

会場：宇治徳洲会病院 10階 講義室

【内容】

- ☆高齢者の栄養について アポット ジャパン株式会社 山口 裕介様
- ☆救急病院のある医師の一言がきっかけに…  
ご本人・ご家族の思いをできる限り尊重する最期への模索 宇治明星園特別養護老人ホーム 副園長 野村宏之氏  
京宇治南地域包括センター支所 社会福祉士
- ☆話題提供  
穏やかな、ふつうの暮らしの中で、最期まで自宅で過ごした女性と、その娘さんの物語～なぜ多職種協働が必要なのか～それぞれの立場から 訪問看護ステーションくら 松井亜矢子様  
ケアプランセンター真直 宇治直典様  
宇治明星園特別養護老人ホーム 相談員西本由佳様
- ☆グループで意見交換  
皆さんで意見を出し合えたら 訪問看護ステーション幹 金澤克枝様

☆「考えてみましよう『人生の終い支度』と医療」解説編  
リーフレット(京都地域包括ケア推進機構)の説明 問い合わせ先 訪問看護ステーションくら  
担当 高橋由美(電話02-4580)

## ▶独居の看取り経験

あり 32人、なし 41人、未回答・未提出4人

## ▶今回の研修が今後の看取りケアにいかけそうですか？

非常に活用できる 40人 かなり活用できる 29人 まあまあ 5人  
未回答・未提出 3人

## ▶受講者アンケート 感想・自由記載より (抜粋)

- ・在宅生活を支える方々の想いを改めて知り、毎日の業務に生かしていきたいと思いました。
- ・看取りを迎える際、いろいろな場面を想定したマニュアルをみんなで確認していき、不安を解消していた実践は参考になった。
- ・専門職の方がそれぞれの立場で、単独で取り組むのではなく、協働していく事の意義をよく知ることができました。これからも多職種の意見交換は必要になると感じました。

受講者  
アンケートより

